

## 内なる対話～「意味ある世間話」となるや、否や?!～

堂本 彰夫

### ⑩ 再び? 「国(家)」、そして「戦争」について?!

- I : 最近、かのコロナ過に関わるニュースは遠景に退き (戻りつつある社会状況は頻繁に知らされていて、それでよいのであるが!)、国内的には、かなり元気の出る話題が増えていますよね (WBCでの日本選手の活躍が、それに拍車をかけた?!ただし、相変わらずの悲報やみっともない話題は尽きない?) !  
それでも、やはり気になるのは、もう一つのウクライナの悲劇ですね! 長引くということは言われていますが、その惨状は、まさに想像を絶しています! 本当に、心が痛みますよね!
- D : まったくですね! しかも、最近時では、もう一つ、それと同じような事態が懸念されますよね?!
- I : 台湾と中国のことかと思いますが、これらが輻輳し合って、全世界が、とんでもない事態に陥ってしまえば、さらに恐ろしいことになりますよね? 考えるだけでも、ゾッとします!
- D : 認めたくはないのですが、そういうことですよ! 誠に残念ですが、人類は、そうした「国(家)」に関わる問題を、相変わらず解決出来ずにいる?! そういうようにも言えますね!
- I : 様々な原因が、そこにはあると思いますが、そして、その中の幾つかは、ひょっとしたら永遠に排除することは出来ないのかもしれませんが (人間の欲望等?)、何とか、それを最小限に、そして、一つでも多く、いわゆる「話し合い」によって解決出来ないものなのですかね?!
- D : もちろん、そこに「国連」という大きな枠組み (英知?) があるわけですが、実際には、それをもってしても如何ともしがたい事態が、今の現実には存在しているということでしょう (事実上は「安保理事会」の問題?) ! ただ、今一つ、そこではっきりしていることは、その「国連」を構成している「国々」には、民族、宗教、政治信条、それ故の多様な価値観/体制志向をもつ人々 (国民) が、混在し合っているということです (「グローバル化」が、それに拍車をかけている?) !
- I : そして、今、そうした国々の一部では、暴力 (武力)、あるいは一人の権力者の暴走によってしか、国 (家) としての解決策を見出し切れていない? 一方では、そういうことでもありますよね?!
- D : 単純に言えば、そういうことでもあります、実は、そこに、他国への違法な侵略や占拠、あるいは内乱やクーデターによるものがあるということになれば、世界が困惑する?! だから、その事態の解消に、それぞれの国 (国民) がどのように取り組んでいるか、そこが重要となってくる?!
- I : ということは、今起きているような問題の構図を抱えている国々 (国民) が、いかに逸早く、それに気がつき、暴力 (武力) での衝突を避ける動きをつくっているかということが問われる?! そして、そのことも含めて、それへの意識・行動のレベルが、その国 (国民) としての実力ということにもなる? ということですよ?!
- D : ということですよ! ただし、厄介なのは、場合によっては、そこに、国内の勢力 (国民) が分裂し、しかも、その双方のどちらかを支援する国 (々) が出来て、言わば、それらの「代理戦争」のような様相が出来上がるということですよ!
- I : したがって、今回の惨劇は、ある意味仕方がないとしても (慙愧に堪えないが、既に起きてしまっている!)、これから同じようなことを起こさないためには、まずは、その内部にいる人々 (国民) が、自らの国の実情 (問題の構図) について自覚し、その解決に向けて、どういう選択を行うかを、あくまでも、自らの意思で決定する! 何よりも、それが必要である! ということですよ?!
- D : まったくその通りかと思いますが! だから、そのことが、自らの力で実現出来ない国 (国民)、あるいは「親○○派」と呼ばれ、国を分断し (現在の自国を否定して?)、その「○○」との共闘や統合を求める人々は、その地にあ (い) るべきではない?! それが、「(主権) 国家」の前提であり、互いに承認し合える担保でもある (そこに「民主主義」、そして、「選挙」の意味がある!) ?! (つづく)